すべての原発いますぐなくそう！全国会議
NAZEN通信
第143号
2025.3.16発行
カンパ50円
発行：NAZEN 事務局
東京都杉並区上荻 1-24-17 丸華ビル 3F
nazen.info@gmail.com

3◆11 郡山　石破打倒の闘いを開始
反戦・反核・反原発あらためて誓う

３月１１日、東日本大震災と福島第一原発事故から１４年を迎えた。石破首相は福島県の祈念式典に出席、「被災者、ご家族の皆様に哀悼の誠を捧げたい」などと語った。「原発最大限利活用」へと転じた第７次エネルギー基本計画を閣議決定し、「核共有」まで掲げておいて、全く許せない。「力強く復興を推進」と言い、建前だけの「廃炉」、20mSv/y 基準のままの「帰還」の推進をうたい、さらには「除去土壌などの最終処分の実現に向けた道筋をつける」と、大熊・双葉の中間貯蔵施設に貯まる汚染土の全国拡散を打ち出した。また、軍事研究と一体のロボット製造企業の研究開発拠点などの視察を行った。

「石破首相は福島に来るな！」を掲げた反原発福島行動'25 には、全国から 485 名が参加、福島の怒りの発言に改めて反原発の原点を誓い、郡山市街をデモ行進。右翼が妨害するも沿道では続々と手を振り応えた。事前の郡山駅前の街宣でも右翼が暴力的に妨害を続けたが、事故当時２歳という高校生が応援してくれるなど、ビラの受け取りも上々、石破政権への怒りの高まりを感じさせた。

石破首相の訪福に対し「石破は帰れ！」とデモ。「核武装」を叫ぶ右翼の妨害にも負けず、街頭から手を振る人が続々！

石破打倒の闘いは開始されました。これは中国侵略戦争を構える米日韓軍事同盟を、日本・沖縄から揺るがす国際連帯の闘いです。沖縄、広島・長崎に天皇を動員し反戦反核運動潰す攻撃とのひと連なりの闘いです。

東電は、特重施設の不備で 10 月に止まる柏崎刈羽原発７号機をそれでも再稼働、６号機を「リレー」で動かすという。絶対に阻止しよう。

≪もくじ≫
◆3・11 集会から①　希望の牧場・吉沢正巳さん、飯舘・安斎さん、福島の青年　…２〜３ページ
◆3・1ビキニデー集会の森川文人弁護士の講演　弾圧に怒り運動倍化させる闘いを　…４ページ
◆甲状腺がん裁判が「黒い雨」訴訟と繋がった　13 回公判と集会の報告　…５ページ
◆「サイレント・フォールアウト」上映＆トークを開催　NAZEN いけぶくろ　…６ページ
◆原発トピックス　一ヶ月のできごとまとめ　…７ページ
◆3•11 集会から②　新地町漁民・小野春雄さん、椎名千恵子さん　＆　スケジュール　…８ページ

3・11反原発福島行動'25に485人

発言集①

フクシマの怒りで原発なくせ！

原発の時代を終わらせる

吉沢正巳さん（希望の牧場よしざわ代表）

14年前の東日本大震災は震度7の激震でした。ものすごかったです。50分後に15㍍の津波が浪江の請戸漁港周辺に来ました。その夜にはメルトダウンが始まる。開けて12日早朝、全町避難。地震から24時間後です。パニックのなか大急ぎで、右往左往しながら逃げました。国道6号は瓦礫で通れず、逃げた津島の方に猛烈な放射能が風向きで運悪く流れてしまった。

あれからみんな転々としました。この避難のなかで関連死は４５０人という数です。弱い人から死んでしまった。人の命の扱いはそういうことでした。何人もの自殺者が出ました。この浪江町の無念の気持ちをどうかわかってほしいと思います。避難解除したって帰ってこない。町があったんですけど、２万人もいないんですよ、１０分の１だ。隣の小高は１万人いなくなった。隣の双葉町は１７０人しか住んでいない。なのに町だと言っている。住民は新しいところに行って「よそ者」「賠償金もらったんだろう」と言われ、肩身の狭い思いをしている。先祖何代も続いたルーツそのものがなくなったんです。何が残っているんだ。思い出のわが家、小中学校はもうない。オリンピックの時に壊した。残ったのは先祖のお墓だ。先祖のお墓に線香をあげに行く、それが浪江町の現実であります。

反対運動で原発を止めた珠洲は、能登大地震で今も雪が降るなか、苦しんでいる。あの地域は捨てられている。福島と能登半島とは扱いが違うんです。東京に電気を送るために、特別な扱いですよ。復興予算が色々来る。もう無駄使いと思えるような、大きな工事が延々とやられている。しかし、いつまでも続きませんよ。人は帰って来ない。帰って来ないところに復興なんてあるだろうか？　ないと思います。僕は「さようなら浪江町」とはっきり言うんです。もう町ではない、村の姿になってしまった。

原発の時代を終わりにする――その闘いをあきらめてはいけない。沖縄の米軍基地の反対運動とともに、原発の時代を一体どうするんだ？　それが私たちに問われている。大変だ。あのドイツだって脱原発を決めながら、「ウクライナ戦争でロシアのガスが来ないから原発をつくろう」という論議が起きている。容易ではない。国策の問題として、〈原発の逆戻り〉がバンバン進もうとしている。昨年、女川・島根の原発が動いてしまった、次から次へ、住民の心配を無視しながら、もう強引です。汚染水を流しながら、汚染土を全国にばら撒く。ふざけるな！　どこも汚染土なんか引き受けませんよ。いわき市だって「嫌だ」と言いはじめている。無理ですよ。だから現実的な問題として、大熊・双葉の今の場所に永久的に埋め立て処分場として埋め立てるしかない。解決方法はそれしかない。ばら撒くな！　なぜ無駄な金を使って汚染土全国にばら撒くのか。これは放射能への拒絶をなくすための作戦だと思うんです。まあいいかとあちこちに見えるところに汚染土を持って行って、抵抗をなくすための作戦だと思います。

福島の電気がなければ東京・首都圏は動かない。なのに我々の故郷はメガソーラーと風力発電の地帯になろうとしている。東京・関東に送られ、東京の一極集中の大都会のエゴをこれからも進めようとしている。

しかし、次なる３・１１が、我々の生きる時代に確実に迫っている。このことを覚悟しなければなりません。全国いたるところで震度７の地震はどこでも起きうる。首都圏直下、南海トラフ、大津波、考えなければなりません。

私たちは、人の命を守っていく、心の持ち方をもっていきたいと思います。

炎の中に住民を放り出した国と闘う

安齋 徹さん（飯舘村）

かつて飯舘村では「原発は安全・安心、クリーン、壊れない、事故は起きない」という謳い文句で子どもさんたちを原発へ連れて行って見学会などもやっていました。ところが１４年前、原発事故が起きました。

原発事故の直後の３月12～13日。飯舘村のところが

高いんです。飯舘の大気は赤さびたように見えました。そのなかに入りましたけど、顔がヒリヒリするんです。鉄工場近くにあるような金属臭の臭いがずっとしていました。それから５月末まで遺体捜索の仕事をやりました。

自分たちが飯舘村を避難したのが６月２６日。しかし、あの当時の飯舘村のトップの方たちは、３月 12 日に自分の家族を避難させているんです。その時、村民には何も言いませんでした。県の方からも何もありませんでした。そういうところに飯舘の住民を置きつづけたんですよ。そして、国から「県外に避難してください」という話が出されました。なのに飯舘村は「村から１時間以内の場所（福島・川俣・伊達近辺など）にしか避難をさせない」と頑なにこれを通しました。けっして許すことはできないです。

自分の両親は飯舘生まれなんです。東京で生活をしていて、戦後、飯舘に入植したんです。つまり開拓です。あの頃は、食べ物もないし、「よそ者」扱いにされ、いじめられました。入植した数十人が一つの集落に住んでいました。でも今は、その場所には住めないんです。

安倍政権になって、オリンピックをやるために、仮設住宅や借上げ住宅から追い出そうという動きが強まりました。仮設にいるとき、国の方からこう言われました。「みなさんのご要望どおり解除しました」「『帰る、帰らない』は、みなさんの考えひとつです」「もし帰って、自分の身に何かあったら自己責任です」と。でもそこは、放射線量が高いところですよ。燃えさかる炎の中にかわいい子や孫を放り投げるようなことをしたんですよ。国は自分たち飯舘の住民にたいして。

ただ今も、国は緊急事態宣言を撤回していません。できないんです。「１００ミリシーベルト以下は影響ない。２０ミリシーベルトを上限に帰しましょう」と。飯舘のうちのところにも、いろいろな専門家の人たちが来て、放射線測定などもやりました。一か所だけ６００万ベクレルもありましたよ。事故当時、まだ家の中にいましたから。

私も飯舘の遺体捜索に通っていたとき、腹がやられたんです。だけれども、それを２カ月間、やりつづけました。それから脱毛もありました。体調が悪くて、病院では心臓が肥大、肝機能不良と言われ胃の中にもポツポツができました。カメラを見たけど酷かった。でも病院から「がんにもなっていないから大丈夫です」と言われ、涙を流して帰ってきました。

それから原発事故から２年目の８月。子どもを保養にやりましたけど、その子どもがのう胞疑いになり、次の年は全員、要経過観察と言われました。福島県は隠したんですからね。甲状腺がんは１００万人に１人くらいしかならないんですけど、福島はあまりにも多い。ただ発表しないからです。これからも福島の地で立ち向かっていきます。

目を背けてきた悔しさ、胸に刻み闘う

福島の青年労働者

私は福島市で生まれ育ち、高１の時に原発事故が起きました。事故後、私は家族とともに福島市に残りましたが、私のまわりでは県外に避難した友達もいたり、母親や兄弟だけ県外に避難し父親は福島に残るといったケースも多くありました。原発事故後は「放射線を持ち込むな」などと、福島から避難してきた人たちにたいし、偏見や嫌がらせも多くありました。こうしたことを懸念した母親から、「今後、結婚したいと思う相手ができたとき、福島を理由に断られたら『ご縁がなかった』とあきらめなさい」と言われたこともありました。その時は軽く受け止めていましたが、高校卒業後、県外で知り合った友人に「もう放射線浴びっちゃってるんだ」と冗談交じりに言われたこともありました。私はそのとき、ようやく母親が懸念していたことを理解することができました。この一件の後、私のもとに甲状腺検査を勧める通知が届きました。私は「どうせ放射能浴びているのに検査したところで何になるのか」「どんな結果になっても国や東電は責任なんてとる気もないくせに」という怒りがわき、その通知を破り捨て、原発事故から目を背けるようになりました。

これまで私は、「福島原発事故をなかったことにしたくない。なかったことにするもんか」という思いと、「放射線という目に見えない脅威にいつまでふりまわされ、おびえなければならないのか」「無色透明なら、もうなかったことにしたい」という思いがせめぎあい、原発事故や内部被曝について、向きあうことができませんでした。

そのことにたいして、私は「これは国家権力によって向き合えない状況をつくられているんだから仕方ない」と目を背けている自分を正当化さえしていました。しかし、当事者である福島の人間が原発事故をなかったことにしてくれることほど、国や東電にとって好都合なことはないのだ。このことに気づいたとき、激しい自責の念にかられました。そして国家権力に加担していた過去の自分を自分だけは決して許すことなく、この時に感じた痛みと悔しさを胸に刻み、反戦・反核・反原発を闘い抜く決意を新たにしました。

3・1 ビキニデー 集会講演

国家権力の弾圧に怒り、力を倍増させて闘おう

森川文人弁護士

3月1日、杉並にてビキニデー集会がNAZEN東京と改憲・戦争阻止！大行進 東京の共催で開催され、暴処法弾圧裁判弁護人の森川文人さんが講演。抜粋し掲載します。（事務局）

「人質司法」を利用した「弾圧」

冤罪と違って、弾圧は「間違って」やっているわけではなく、狙いをつけて行う。「反戦・反核は犯罪か」といえば、「反」がつく時点で犯罪になるわけですよ。戦争や核・原発を進める国家に反旗を翻すわけだから、犯罪として処罰していく方針をとっている。

戦時弾圧は、有罪にすることが目的ではない。逮捕から23日間は起訴するまで勾留できる。監禁されて毎日取り調べを受けること自体が拷問です。起訴後も保釈率は2.5％、有罪率は99.9％。これが「人質司法」です。

国家権力は、合法の装いで「暴力」と思われない。戦争も巨大な暴力だけど、国家権力が準備しているかぎりは暴力じゃないと理解させようとする。国家としては戦地に動員しなければならない。「反戦運動や思想は間違っていて、近づくと捕まるぞ」とキャンペーンをするために、弾圧を行ってくる。正しいのに逮捕される、ということではなくて、正しいからこそ逮捕される。それが戦時だ。

したがって、「何をやったか」で逮捕されるわけではない。「誰が」やったかです。「何をやったか」は捕まえてから見つけたって言い訳だから。

弾圧は戦争と一体

「戦争が外部に対する暴力的侵略であると同時に、国内においては反動的恐怖政治足らざるをえない」（小林多喜二）。外に向かっての暴力の準備と共に、弾圧を強化している。

現状、裁判所は、我々の裁判所と呼べるものでは一切ない。ロシア革命では「手始めに50～100人の億万長者を逮捕しなければならない」と言った。韓国では大統領を逮捕せよと言っている。民衆が民衆のために、邪魔になるブルジョアジーや権力を逮捕し、ブルジョアのための裁判所は粉砕するしかない。

戦時には反戦とラディカルという思想は一致してくる。「反戦の主張は、ほとんどみな共産主義者たちによる『帝国主義戦争反対』の主張として現れてくるものであった。そのために治安維持法による共産主義弾圧の下で常に禁止・処罰の難を免れず、共産主義運動が地下に潜行していく中で、反戦思想も運命を共にし、国民の間に広く普及する自由を持つことができなかった。

しかも、共産主義弾圧を中核とする思想・表現の抑圧は、単に出版・言論・集会・結社の自由を奪うにとどまらず、警察官・検事等の権力執行機関が、反体制的思想の持主、反体制運動参加者に対し、違警罪即決例・行政執行法を濫用して違法に検束・拘禁したり、警察署内で暴行を加えたり、長期にわたる未決勾留をつづけるなど、法令に反した職権濫用の犯罪に該当する方法までを用いて、直接人身の自由を侵害することにより、国民を威嚇し萎縮させる効果をあげたのだった」（『太平洋戦争』家永三郎）

まるで今の話じゃないですか。

ナショナリズムと意識的に対決を

我々が戦争に反対の声をあげているのは、国家権力に非和解的に対立する思想を持っているから。国対国ではなく、国境を越え階級的に対立していると意識し、ナショナリズムから決別した思想のもとで、自国の戦争政策に反対する。ナショナリズムと切り離すことができないリベラルは、日和見主義へ、排外主義へ転落していくのが歴史の教訓です。意識的にナショナリズムと対決することが必要です。

国家の暴力を怒りに変えて闘っていく。我々こそが奴らを裁いて、逮捕するんだという主体意識を持って闘っていくことが必要だと思います。政治弾圧というのは、「昔は酷かった」とはよく言われるけど、今闘わないといけない。歴史を経験し学んだわけですから、その義務がある。弾圧があれば、さらに力を倍増させていくような闘いをやりましょう！

子ども甲状腺がん裁判　第13回公判と青学集会

広島「黒い雨」訴訟と福島がつながった！

ついに福島の小児甲状腺がん裁判の闘いと、広島の「黒い雨」訴訟が結びつきました。3月5日に行われた第13回公判と、翌日の青山学院大学における集会です。

5日の公判の際の支援集会で、「黒い雨」訴訟原告団事務局長の髙東征二氏は「原爆投下時自分は4才。姉は6年生で救護活動にあたり、高校生の時心臓弁膜症と診断され27才で死去した」「内部被曝にあったことも知らずに次々と仲間が死んでいった。このままでは死ねない。前日福島に行った。10代の人たちが頑張っている。みんなで手を結んで頑張っていこう」と話されました。

翌日の「つながる　黒い雨×甲状腺がん」集会では、元毎日新聞記者の小山美沙氏とアワプラ白石草氏の共同企画で持たれました。その2人から「どうしたら“黒い雨“と福島が繋がれるのか。核エネルギーが開発されて80年、内部被曝は一貫して否定され続けてきた。ヒロシマ、ナガサキ、ビキニ、フクシマが各地域の問題としてバラバラに分断されてきた。しかし相手は専門家と称して一つになっている。ヒロシマ、ナガサキ、ビキニ、フクシマが一つになることがこれを乗り越えていく道だ」と問題意識が語られました。

◆「圧力あろうと真実を貫き通す」

この後「黒い雨」訴訟原告の髙東氏の講演。「地元広島の行政や厚労省と交渉してきたがらちがあかない。“黒い雨“の真実を伝えるために訴訟に踏み切った」。そして「福島は放射性微粒子が多く飛んで内部被曝をしているのは明らか。核兵器も原発も駄目だ。小児甲状腺がん裁判の原告は、若いのに友達もできない、夢も実現できない。その後ろに沢山の人がいると思うとじっとしていられない」。

幕の向こう側から二人の若い原告がインタビューに答える形で発言し、原発事故にあってからの辛い体験、福島では親族にも裁判のことは話せない厳しい現実が語られました。提訴から3年。二人とも頑張らなければという気持ちになっており、沢山の人が応援してくれていることも伝わっています。同じ境遇の人と出会えて良かったと皆で話していると、今の心境も語られました。

髙東氏は「どんな圧力、差別、分断があろうと真実を貫き通したら通るんだ」とエールを送っていました。

ヒロシマ、ナガサキ、ビキニ、フクシマが一つにつながること。その核心は内部被曝問題だということ。この地平を広げていくことが今後の大きな課題ではないかと思います。

（NAZEN いけぶくろ　櫛渕）

第13回公判で東電は因果関係否定

今回、岡大・津田名誉教授の意見書が出された。因果関係に関する判断要素の中心は「統計学的、疫学的知見等に基づく被曝と疾病等との関連性の有無、程度」とし、東電が主張する被曝線量が問題ではなく、疫学の基本である暴露の認定が重要とした。暴露での病因物質の判明や暴露量の測定は因果関係の必要条件ではない。これは疫学の鉄則と主張。小児甲状腺がんを数十倍も広域で多発させる原因は放射能の他はありえない。これはチェルノブイリ事故でも実証済みであるとしている。

東電側は専門家3人の反論を提出。東大、阪大、元がん研の研究者（うち二人は県民健康調査検討委員会の元委員）。3人とも過剰診断論、100mSv以下では小児甲状腺がんは発症しない、福島では皆10msv以下だと主張。

支援集会では原告①さんの母親が「前向きに真実を知りたい」と訴える場面も。裁判官は小児甲状腺がんの多発があるのかと強い関心を示している。次回は6月25日です。

2/22 池袋「サイレント・フォールアウト」上映＆トーク

核と人類・生態系はあいいれない

NAZEN いけぶくろは２月 22 日、事務局長の織田陽介さんをお招きし、映画「サイレント・フォールアウト」の上映会&トークを開催しました。

この映画は、著書「放射線を浴びたＸ年後」の作者である伊東英朗さんのシリーズ第３弾で、2023 年 10 月に公開されました。以降、28 の国際映画祭で評価されています。

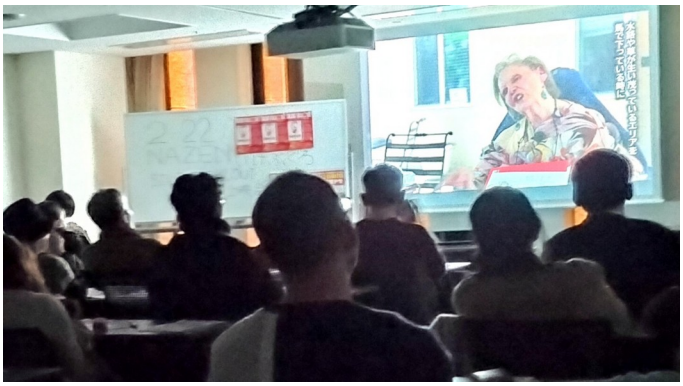
●ネバダ核実験で全米が放射能汚染

アメリカ政府は 1950 年代にかけて、ネバダ州の核実験場で 101 回もの大気圏内核実験をおこないました。大きな被害を受けたのは、核実験場からおよそ東に 200km 離れた町に住む人たちでした。そこに住む人たちは、家族やその友人をみなガンや白血病で亡くします。放射能が風に乗って町に降り注いだのです。この事実は、私たちにとっては 14 年前の福島第一原発事故を鮮明に想起させます。

さらに驚くべきことは、ネバダ核実験から 3,700km 離れた米東海岸でも、核実験に由来する放射線が確認されたことです。全米が放射能に汚染されたという事実を初めて知り、衝撃を受けました。

●地球上に住むすべての人が被爆者

さらに作品では、マーシャル諸島での核実験による被曝の影響にクローズアップします。マーシャル諸島では 1946 年から 62 年までに 100 回以上の核実験がおこなわれました。米政府はアメリカ国内だけでなく、日本にある三沢や横田などの米軍基地に観測装置を設置しました。その結果は米公文書として発見されていますが、明確な放射線量の上昇が認められています。これはアメリカや日本で観測していたというだけであって、実際には世界中を放射能が覆いつくしたのです。地球上に



住むすべての人が「被爆者」であり、生態系に残存する放射能に関わるいま現在の当事者なのです。怒りがこみあげてきます。

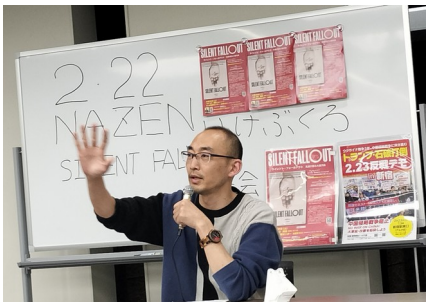
●自分のできることから

伊東監督は作品の冒頭、みずから登場し「何か自分のできることから始めてほしい」と言っています。当事者意識を激しく駆り立てるこの作品をみなさんにもぜひ観てほしいと思います。

核と人類・生態系とはあいいれないことを強く認識しました。原子力の平和利用などというのはまったくのペテンです。そもそも原子力は核兵器の開発のためにうまれたのです。いっさいは戦争が元凶です。

日本においても潜在的な核保有能力を持つために原発を再稼働し、核燃サイクルを推進しようとしています。第７次エネルギー基本計画で「原子力の最大限活用」を明記し、一貫して核を肯定する石破政権こそ打倒しなければなりません。中国侵略戦争をとめ、戦争も核も原発もない社会を未来の子どもたちに残すために、行動に立ちましょう。

（NAZEN いけぶくろ　茶屋可鉄）



原発トピックス

25年2月12日～3月11日

東海第二、ヒューズ交換で制御室出火か

２月４日に東海第二原発で中央制御室の制御盤から火や煙が出た火災について、日本原電は「ヒューズ」と呼ばれる部品をより多くの電気を流せるものに交換したことで、出火につながった可能性があると発表した。中央制御室では、原子炉内の中性子の測定に関する装置の部品が正常に作動するか、確認する試験が行われていた。制御盤の回路に使っていた「ヒューズ」を交換し、多くの電流が流れる状態が続いて別の部品が発熱、出火につながった可能性。（2月１２日ＮＨＫ茨城）

除染土再利用のパブコメ、住民置き去り

福島第一原発事故の除染作業で集められた福島県内の「除染土」を全国で再利用するための省令改定案を環境省が公表している。１５日を締め切りにパブリックコメント（意見公募）を行っているが、その難解さに「さっぱり分からない」との批判が続出。除染土の県外での最終処分量を減らすため、道路工事や農地整備といった公共事業などでの「再利用」を検討。５年前に省令改定案を提示したが、批判を浴びて見送り、今回再提示。今年４月の施行を目指す。（２月１５日　東京）

３０㌔圏の住宅耐震化率、平均以下８割

全国１５原発の周辺３０㌔圏内の市町村の住宅の耐震化率は、８割近くで全国平均を下回る。原発で事故があった時に避難や屋内退避が求められるが、地震への備えが遅れている実態が浮き彫りに。耐震化率は、震度６強～７でも倒壊しないとする「新耐震基準」を満たす割合。全国平均は約８７％。全国１５原発周辺１２２市町村の耐震化率は、７７・９％にあたる９５市町村で全国平均を下回った。新潟県刈羽村など５町村は耐震化率を把握していないという。（２月２１日　朝日）

柏崎刈羽の「特重」工期延長を届け出

東電は、再稼働を目指す柏崎刈羽原発で建設中の、テロに備える特定重大事故等対処施設（特重）の完成時期を、７号機は２５年３月から２９年８月、６号機は２６年９月から３１年９月に大幅に遅らせる変更届け出を規制委員会に提出した。７号機は準備が整っているが１０月以降は運転できず、６号機は６月に燃料装荷し８月に再稼働の技術的な準備を整える方針。県知事の同意が得られた場合、６号機、７号機のリレー形式で発電することを検討している。（２月２８日　朝日）

東電旧経営陣の無罪に被災者「理不尽」

日本を一時存亡の危機に陥れ、なお福島県内外で深刻な影響が続く原発事故で、誰一人として刑事責任を負うことがなくなった。福島第一原発事故を巡り業務上過失致死傷罪で強制起訴された東電旧経営陣２人の上告審で、最高裁の決定により無罪が確定する。「津島原発訴訟」で原告団長を務める今野秀則さんは「１０万人以上の避難者を生んだ事故を起こしながら、結果的に刑事責任が問われないなんて理不尽だ、誰も責任を取ろうとしない」と憤った。（３月６日　毎日）

関電等が敦賀２号機調査費出し原電支援

原子力規制委員会が新規制基準に適合していないと判断した日本原電の敦賀原発２号機を巡り、中部、北陸、関西の３電力が、再審査に向けた追加調査の費用負担を検討していることが分かった。昨年１１月、２号機の原子炉建屋直下に活断層がある可能性を否定できないとして、初めて「不適合」の最終判断を下され、事実上再稼働は不可能に。ただ、制度上は審査の再申請が可能で、３電力は同原発からの電力供給契約を結んでおり、原電支援を継続する方向だ。（３月６日　時事）

3・11反原発福島行動'25発言集②

トリチウム汚染水流すな！

小野春雄さん（新地町漁民）ビデオメッセージ

新地町で50年近く漁師をしています。トリチウムを海に放出することに反対し、原告団にもなって裁判で意見を言いました。海は皆のものです。人間が作った核のごみをこの海に投棄するのは、人間として絶対にやってはいけません。止めるべきです。

トリチウムを流して本当に害はないのか。海に生きているのは魚で、その魚を人間は食べるんですから。ごみを海に投げるのは法律でダメだけど。トリチウムだけまかり通るのは考えられない。30年後、50年後、１００年後に害が出る可能性もあるから、トリチウムを海に放出することには皆反対してほしい。

戦争もその通り。人間を殺すことをやってはダメなんです。止めるべきです。

福島に原発はいらない。一番求めているのは廃炉です。福島は何も復興していない。廃炉の道筋を聞きたい。いつ終わるのか。

日本が戦争でどれだけ苦労したのか。今の人もどれだけ苦労したか。今の人も苦労しているのに戦争が終わらない。日本は原爆に反対すべきです。

フクシマは屈せず闘いぬく

椎名千恵子さん（3・11反原発福島行動実共同代表）

おかえりなさい！広島暴処法弾圧のヒロシマ・ファイブのみなさん。戦時弾圧をはね返した京都大学の学生のみなさん。原爆ドーム前の反戦集会締め出しを阻止し、京大闘争は壊滅攻撃を跳ね返しました。３・８国際婦人デー闘争は、ロシア革命を切り開いた闘いの熱量を彷彿（ほうふつ）とする一日でした。

正義は私たちの側にあると確認し、一歩も引かずに原則的にやりぬいてきました。歴史を画する反戦・反核・反原発を闘う福島は、鼓舞されております。

中国侵略戦争に向かってアメリカ帝国主義トランプと軍事同盟を結び、核武装路線を猛進する石破は今、福島市飯坂での追悼復興祈念式に来ています。２０１１年３月１１日の福島第一原発事故をなかったことにするためです。ありえない！激しい怒りがこみ上げます。

事故当時、石破は自民党政調会長として「日本は核を持ちうる」「原発の技術とロケットの技術を組み合わせれば短期間で核保有を現実化できる」と述べ、原発推進と核武装を画策していました。その石破が、第７次エネルギー基本計画で原発の最大限活用に転換しました。どうして許せよう！

福島の核惨事は１４年経っても、多層多重に存在します。帰還困難区域や期限の枠組みを勝手に決めるな。放射能汚染土を全国にばら撒くな！　加害者が決めることでは絶対にない。私たち、3・１１反原発福島行動はけっして屈せず、これからも国家と対峙し、闘い続けます。

スケジュール

■2025年「4・9反核燃の日」全国市民集会

日時：４月５日（土）11:30～

場所：青森市文化会館・４階小会議室１

主催：「４・９反核燃の日」全国市民集会実

■第40回「4・9反核燃の日」全国集会

日時：４月５日（土）14:00～　※終了後デモ

場所：青森市文化会館・５階大会議室

主催：「4・9反核燃の日全国集会」実行委

●関連行動　４月６日（日）10:30～、六ケ所再処理工場門前抗議／六ケ所村村内デモ

2・22福島反戦集会・デモ（福島市内）

■4・28沖縄デー闘争（東京）

日時：４月２７日（日）13時～

場所：代々木公園・けやき並木

主催：改憲・戦争阻止！大行進